

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和6年度 東中だより 第13号	発行日	令和6年11月1日
教育目標	新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【学習発表会】

10月25日に開催しました第77回学習発表会において、多くの保護者のみなさまにお越しいただき、誠にありがとうございました。

『合唱魂 cool! ～どこまでもつづく^{せいしゅん}声 春～』のスローガンのもと、子どもたちは、24日に教科や部活動の作品展示を鑑賞し、25日に合唱コンクールと舞台発表を行いました。

展示発表では、夏休みの課題や日頃の授業で作成した作品を展示しました。どれもクオリティの高い作品ばかりで、子どもたちの日頃の努力の成果や個性、伝えたい思いなどをたくさん感じることができました。また、子どもたちは友だちや先輩、後輩の作品に興味深く鑑賞し、よい刺激に受けていたようです。

合唱は、どのクラスも合唱コンクールにかける意気込みが強く、中間テスト後から、校内は子どもたちの美しい爽やかな歌声が響きわたっていました。本番では気持ちのこもった歌声が体育館いっぱいに広がりました。子どもたちの楽しそうに歌っている姿に、心を動かされた方も多かったのではないのでしょうか。合唱をとおして、クラスのみんなが心を一つにして目標に向かって必死に頑張ったり、今できることを考え、真剣に取り組んだりしている姿はとても素晴らしいと改めて感じました。結果発表の時にうれし涙、悔し涙を流している子どもが多くおり、学習発表会にける子どもたちのひたむきな気持ちに私自身も熱い思いがこみ上げてきました。すべてのクラスに表彰状を渡してあげたくなるような合唱コンクールでした。



午後は、茶華道部や英語スピーチ、トライやる・ウィークの発表、吹奏楽部の演奏でした。とても時間をかけて懸命に取り組んできたことがうかがえるものばかりで、とても楽しいひとときでした。

また、放課後に展示会場や体育館の準備や清掃活動をしてくれた子どもたち、生徒会のみなさんの力なくしては、あのような素晴らしい学習発表会はなかったでしょう。

このような感動や達成感を味わうことで、子どもたちは自分が大切な存在、認められる存在であると感じることができ、学校が『心の居場所』となると信じています。また、学習発表会をとおしたクラスメイトとの関わりや、認められる体験を積み重ねていくことで、自己肯定感を高め、ひいては、前向きに生活していく上での自信につながっていくことを願っています。



【中国佛山市学生交流会】

10月18日（金）に伊丹市と友好都市である中国佛山市の順徳第一中学外国語学校の学生団が本校に来校しました。佛山市と伊丹市は1985年（昭和60年）に中国友好都市関係を締結し、40年間にわたる友好関係を築いてきました。今回の教育交流も両市の友好を深めていくことを目的としたものです。

私自身も2017年3月に1週間、伊丹市中学生派遣団の団長として、市内8中学校の代表生徒8名を引率して、佛山市を訪問させていただき、「世界で通用するコミュニケーション力」「広い視野から物事を考えられる力」など、グローバルな視野での教育の姿を見せていただきました。実際に学生団が来校しての交流は、コロナの影響で5年ぶりでした。



当日は、午前中に歓迎セレモニーを行い、東中生を代表して3年生総務委員が参加しました。その後、3年生2クラスにおいて英語科の体験授業を実施し、昼食は3年生と一緒に給食を食べました。終始、本校の子どもたちは、積極的に佛山市の子どもたちに話しかけており、子どもたちのコミュニケーション力や海外の生徒たちに臆することなく接することができる適応力の高さを感じました。

午後は体育館において交流会を行い、全校生徒が参加しました。交流会では、本校生徒と佛山市生徒の挨拶の後、それぞれ演技などを披露しました。本校は、校歌四部合唱、なぎなた部によるリズムなぎなたの披露、吹奏楽部アンサンブル演奏、2年生ソーラン隊の踊りを披露しました。佛山市の生徒は、伝統舞踊を2つ、建造物紹介、切り紙、歌（歌手：Kiroroの「未来へ」）を披露してくれました。



その後、本校美術部の子どもたちが自分たちで作成した作品を贈呈しました。両校で取り組んでいるものなどを交流し合う中で、互いの頑張りを知り、認め合ったり、応援し合ったりすることができました。

海外の生徒たちとのやりとりを通して、子どもたちは自分たちの学校や伊丹市に誇りを持ったり、これまで取り組んでいることの認識を深めたりすることができたと思います。今後、世界で活躍できる人材となるためにはこのような取組を通して、子どもたちに自分の学校や地域、伊丹市の良さを認識するとともに愛着を持ってもらいたいです。今回の経験が、子どもたちの自信に繋がってほしいと願っています。

訪問前日の進路説明会で、関西大学第一高等学校と市立伊丹高等学校の校長に来校いただき、説明してもらった話からも高校においても積極的に海外との交流を通して、グローバル人材を育成されています。今後、さらに世界を視野に入れた取組や考えが必要になってきます。日本の教育の方向性を審議する中央教育審議会では、日本の発展を担う主役として、高度な専門的知識と倫理観を基に自ら考え行動し、新たな知を創り出し、枠を超えてグローバルに活動できる人材の育成が急務だと述べています。グローバル時代において、イノベーション（革新）を起こす人材を育てていくことは必要であり、そういった観点の教育にも努めていきたいと考えています。